

教員採用試験対策水泳指導事故 報告書 2016（平成 28 年度）7 月 29 日（水）

7 月 29 日（水）、橿原市総合プールに 9 時 30 分集合で教員採用試験対策の水泳指導を計画した。計画は[]と数回の打ち合わせをして日程と参加者を募った。当日の参加者は 7 名の男子学生で[]寺岡であった。

当日、9 時 30 分の集合であったが寺岡がバスを 1 本乗り遅れたと連絡があり入場したのは 9 時 50 分くらいであった。

更衣の後、流れるプールで 1 周体を慣らし 25 メートルプールに移動した。けのびの練習とプールを横に数回泳がせた後、25 メートルを 2 本泳がせた。寺岡の泳ぎやけのびを見ては水泳を習っていたんだと感じた。参加した何人かも寺岡が上手いので感心していた。休憩の時間になったので全員がプールサイドに上って休憩した。時間は 10 時 30 くらいと思うが定かでない。

休憩の時間に、[]がおなかの調子が悪い様子がトイレに行っていたがそのまま体の調子をみながら泳ぐと言いに来たので無理をしないようにいってそのまま実習を続けさせた。

休憩の時間に 50 メートルプールに移動ししばらく待機していた。前では高校生の男子が数名遊んでいた。寺岡は白いナイロン袋に入った 2 リットル入りのすでに半分近く飲まれたぬるくなったアクエリアスを少し飲んでいた。

休憩時間が終わったので、50mプールの東側の壁際のコースを半分の 25 メートルまで泳ぐよう指示したが、全員 50 メートルまで泳いだ。休憩したのち、25 メートルを 5 本泳ぐよう指示した。私が 50mプールの 25m地点におりそこまで泳いで上がらせた。全員が泳ぎ終わり休憩の途中で時計を見ると 11 時 15 分であったのを確認した。12 時までには実習を終える予定で 25 メートルをもう一度 5 本泳ぐように指示をした。

全員が端のコースを真ん中（25m）まで泳いでいたが、寺岡は端から二番目のコースを泳ぎ、中間地点を通過し 50m地点を目指して進んでいった。前後の時間が定かでないが端のコースを[]が 50m地点を目指して進んでいった。他の学生は 25mまでを練習していた。

[]がプールから上がり寺岡の方のコースを見て寝転がっていたので、二人は何かしていると私自身が勘違いしていた。しばらくして、[]が「寺岡がずっと潜水している」と言いに来たのであわてて確認にいった。同時に監視員が飛び込んだので一緒に飛び込んでプールサイドに寺岡をあげた。最初、監視員が胸骨圧迫をしたが不十分に感じたので代わって私が行った。胸骨圧迫と人工呼吸をしているときに口、鼻から血液の混じった水を吐き出したが意識は戻らない。途中で女性スタッフ（看護師）の方に胸骨圧迫を交代した。AEDが届いたので装着した。数回の心電図のアナウンスがあったが AED が作動することはなかった。

救急隊が駆けつけ処置を受け継いだ。救急隊から寺岡君の詳細について聞かれたので

大学に連絡を入れた。寺岡は奈良県立医大に搬送された。私もそのまま別の救急車で奈良医大に行った。控室で、樫原警察の刑事に事故の状況を説明した。大学からは■■■がサポートに来た。14 時ごろ保護者が到着し、ドクターから容態の説明があった。その後、保護者から容態を聞くことになった。

肺に大量の水が入り、心停止がしばらく続いたことで脳にダメージがある。回復しても植物状態になるとのことであった。今日は友達の家から実習に参加したと母親から聞いた。誰かはわからない様子であった。寺岡は過去にスイミングに通っており選手コースまで習っていたと母親から聞いた。時間をおいて、祖父、妹が到着した。連絡先の交換をして大学に戻り、■■■学科長と■■■局長に事故の報告をした。